

ウィーン・コンツェルトハウスでのベートーヴェン・ツィクルスでセンセーションを
巻き起こした、いまもっとも注目を集める世界最高峰のカルテット
いよいよ京都初登場!

北山クラシック倶楽部2018

BELCEA QUARTET

Belcea Quartet, String Quartet
Corina Belcea, Violin
Axel Schacher, Violin
Krzysztof Chorzelski, Viola
Antoine Lederlin, Violoncello

ベルチャ弦楽四重奏団

ヴァイオリン: コリーナ・ベルチャ / ヴァイオリン: アクセル・シャハー
ヴィオラ: クシシュトフ・ホジェルスキー / チェロ: アントワーン・レデルラン

— オール・ベートーヴェン・プログラム —

ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲

Beethoven: String Quartets

第3番 二長調 op.18-3

No.3 in D major, op.18-3

第11番 へ短調 op.95「セリオソ」

No.11 in F minor, op.95 "Serioso"

第15番 イ短調 op.132

No.15 in A minor, op.132

2019 **1/31** (木) 19:00 開演 (18:30 開場)

京都コンサートホール
アンサンブルホールムラタ

Thursday, 31 January 2019, 19:00 / Kyoto Concert Hall Ensemble Hall Murata

全席指定: 一般 ¥5,000 / 会員* ¥4,500

会員先行: 2018年9月15日(土)

一般発売: 2018年9月23日(日)

*京都コンサートホール・ロームシアター京都Club及び京響友の会の方が対象です。

主催: パシフィック・コンサート・マネジメント

共催: 京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) / 京都市

後援: 村田機械株式会社

*やむを得ない事情により、曲目や出演者等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

*就学前のお子様のご入場・ご同伴はご遠慮ください。

今やクラシック・シーンを牽引する世界最高峰のカルテットと謳われて久しいベルチャ弦楽四重奏団。欧州の名門ホールやザルツブルク音楽祭をはじめとする主要音楽祭でも活躍する彼らは、切れ味鋭い一糸乱れぬアンサンブル、抜群の集中力と洗練された音楽的センスで楽曲の持つニュアンスを絶妙に描き分けていく。2012年に12日間にわたりウィーン・コンツェルトハウスで開催したベートーヴェン全曲演奏会が大絶賛され、「ベートーヴェンといえばベルチャ・カルテット」とさえ言わしめた、この「新時代の先駆者」ベルチャ弦楽四重奏団によるオール・ベートーヴェン・プログラムは至高の一夜となるだろう。

チケットのご予約・お問合せ

京都コンサートホール 075-711-3231

<https://www.kyotoconcerthall.org/>

(10:00 ~ 17:00 / 第1・第3月曜日休館 *休日の場合はその翌平日)

ロームシアター京都 075-746-3201

(10:00 ~ 19:00 / 年中無休 *臨時休館日を除く)

24時間オンラインチケット購入 [京都コンサートホール](#) [検索](#)

プレイガイド

ローソンチケット <http://l-tike.com/> 0570-000-407 (Lコード: 56643)

「ベートーヴェンが残した偉大な財産への探究は尽きることがなく、彼の音楽が私たち人類に直接語りかけ、心を掴んで離さない。この音楽を駆り立てている衝動は、自由への憧れや自分自身の限界を広げて真実を得ることなど、抑えきれない欲望の中に存在する」

——ベルチャ弦楽四重奏団



ベルチャ弦楽四重奏団 Belcea Quartet

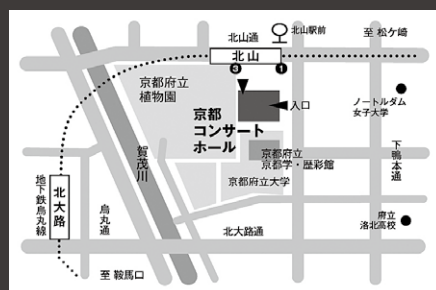
伝統的なことに捉われず、様々な文化的背景に裏打ちされたダイナミックで自由な音楽解釈を持つベルチャ弦楽四重奏団は、1994年、ルーマニアのコリーナ・ベルチャ（ヴァイオリン）、ポーランドのクシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ）、その他2人の創設者と共に英国王立音楽大学で結成された。このそれぞれ母国が異なる4人のアンサンブルは、歴史あるカルテットのアルバン・ベルク四重奏団やアマデウス四重奏団に師事する。その後、フランスのアクセル・シャハー（ヴァイオリン）とアントワーヌ・レデルラン（チェロ）が加わり、多様な影響を共通の音楽言語へ調和させていった。この多様性がベルチャ四重奏団の幅広いレパートリーを可能にしており、古典派やロマン派の作品を得意とする一方で、多くの現代作品の世界初演を行っている。

2017/18シーズンよりベルリンのピエール・ブレーズ・ザールのアーティスト・イン・レジデンスを務めるほか、2010年よりアルテミス弦楽四重奏団と共にウィーン・コンツェルトハウスのレジデンス・アンサンブルを務めている。

EMIレーベルと長きにわたり専属契約を結び、2001年のデビュー・アルバムでグラモフォン賞を受賞。その後も名盤を数々リリースしており、「ベートーヴェン：弦楽四重奏曲全集」（2013年、ジグザグ・テリトワール）と「シェーンベルク&ベルク&ヴェーバーン：室内楽曲集」（2015年、アルファ）はエコー・クラシック賞を受賞し、「ブラームス：弦楽四重奏曲全集」（2016年、マーキュリー）はディアパソン・ドール賞を受賞。最新盤は「ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲第3番&ピアノ五重奏曲」（2018年、アルファ）が好評を博す。

2012年にウィーン・コンツェルトハウスで開催した「ベートーヴェン：弦楽四重奏曲全曲演奏会」は、フランスのMezzo TVで放送され、DVDとしてリリースされた。日本においてもクラシカ・ジャパンで完全放送され、絶賛された。

2018/19シーズンは、ウィグモア・ホール（ロンドン）、カーネギー・ホール（ニューヨーク）、シャンゼリゼ劇場（パリ）、ストックホルム・コンサートホール、アルテ・オーパー（フランクフルト）、台北コンサートホール等に登場する。



会場・アクセス

京都コンサートホール

075-711-3231 <https://www.kyotoconcerthall.org/>
(10:00 ~ 17:00 / 第1・第3月曜日休館 *休日の場合はその翌平日)

〒606-0823

京都市左京区下鴨半木町1番地の26 (地下鉄烏丸線「北山」駅 ①③番出口南へ5分)